

第2章 店舗形態別価格

この章では、構造編の店舗形態別価格調査^(注1)等から得た情報を基に特別集計した結果を用いて、第1節及び第2節では店舗形態別の価格水準、第3節では店舗形態別の価格分布の状況、第4節では店舗形態別の価格の動きについて、それぞれ解説する。

(注1) 構造編の店舗形態別価格調査は、スーパー・一般小売店・量販専門店などの店舗形態の違いによる価格の違いを把握するため、全国の道府県庁所在市(46市)において小売価格を調査している(東京都は、動向編において様々な店舗形態の価格が得られているため、構造編では調査を行っていない)。

調査品目は、比較対象となる各店舗形態において価格調査が可能な品目の中から、9品目を選定している。

集計においては、構造編の調査価格に加え、動向編で調査している全ての道府県庁所在市の店舗の価格も利用している。構造編の店舗形態別価格調査の調査店舗の選定は、比較対象となる各店舗形態が原則同数となるように行っている。例えば、食料品の場合、スーパーと一般小売店の価格差を比較することを目的として調査を行っており、動向編では主にスーパーを選定しているため、構造編では原則として一般小売店を選定している。

1 スーパーと一般小売店の比較

- ◆ うるち米、コロッケ及び清酒はスーパーの価格が低い
- ◆ 豚肉は一般小売店の価格が低い

スーパーと一般小売店の価格差を比較することを目的として調査している4品目(うるち米^(注2)、豚肉^(注3)、コロッケ及び清酒)の年平均価格^(注4)をみると、うるち米、コロッケ及び清酒は、スーパーの価格が低くなっている。一方、豚肉は一般小売店の価格が低くなっている。

また、スーパーの年平均価格を100として一般小売店の価格水準をみると、コロッケ(126.5)の水準の差が最も大きくなっている。

2019年(令和元年)結果と比較すると、うるち米、コロッケ及び清酒では価格水準の差が拡大している。拡大した要因は、うるち米は、価格水準が高い一般小売店の価格の上昇率が、価格水準が低いスーパーの価格の上昇率を上回ったことによる。コロッケ及び清酒は、価格水準が低いスーパーの価格が下落し、価格水準が高い一般小売店の価格が上昇したことによる。

(表2-1, 図2-1)

(注2) うるち米は、単一原料米(コシヒカリ以外)を調査している。

(注3) 豚肉は、国産品、バラ(黒豚を除く)を調査している。

(注4) 全都道府県庁所在市(全47市、東京都については東京都区部)の年平均価格

表 2-1 調査対象 4 品目の店舗形態別年平均価格及び価格水準

品目 (単位)	店舗形態	2020年			2019年			2019年との比較 (2020年-2019年)	
		年平均 価格 (円)	価格 水準 (注5)	価格水準 の差 (注6)	年平均 価格 (円)	価格 水準 (注5)	価格水準 の差 (注6)	年平均 価格の 変化 (円)	年平均 価格の 変化率 (%)
うるち米 (1袋(5kg))	スーパー	2,147	100.0	4.1	2,146	100.0	3.6	1	0.0
	一般小売店	2,234	104.1		2,224	103.6		10	0.4
豚肉 (100g)	スーパー	241	100.0	-14.5	240	100.0	-16.3	***	***
	一般小売店	206	85.5		201	83.8		***	***
コロッケ (100g)	スーパー	98	100.0	26.5	100	100.0	21.0	-2	-2.0
	一般小売店	124	126.5		121	121.0		3	2.5
清酒 (1本(2,000mL))	スーパー	984	100.0	20.7	990	100.0	19.4	-6	-0.6
	一般小売店	1,188	120.7		1,182	119.4		6	0.5

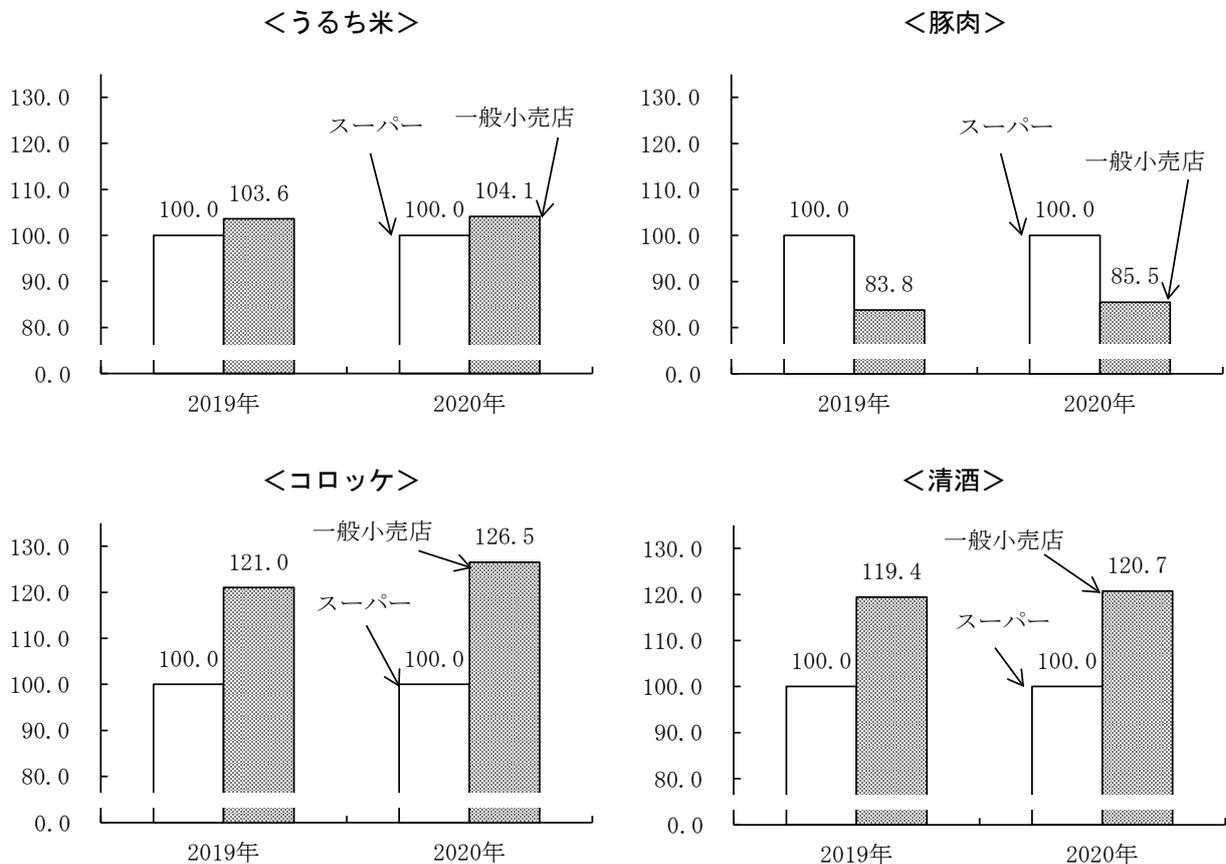
(注5) 価格水準は、各年のスーパーの年平均価格を100とした際の値

(注6) 価格水準の差=「一般小売店」の価格水準-「スーパー」の価格水準

「***」: 調査銘柄が異なるため2019年との単純比較はしない。調査銘柄の詳細については、「付録4 調査品目及び調査銘柄」

(2019年については、<https://www.stat.go.jp/data/kouri/kouzou/zuhyou/hin2019.xls>) を参照

図 2-1 調査対象 4 品目の店舗形態別価格水準 (スーパーの年平均価格=100)



2 スーパーと量販専門店の比較

- ◆ ラップ及び生理用ナプキンはスーパーの価格が低い
- ◆ 洗濯用洗剤、ドリンク剤及び整髪料は量販専門店の価格が低い

スーパーと量販専門店の価格差を比較することを目的として調査している5品目（ラップ、洗濯用洗剤、ドリンク剤、生理用ナプキン及び整髪料）の年平均価格^(注7)をみると、ラップ及び生理用ナプキンは、スーパーの価格が低くなっている。一方、洗濯用洗剤、ドリンク剤及び整髪料は量販専門店の価格が低くなっている。

また、スーパーの年平均価格を100として量販専門店の価格水準をみると、ドリンク剤が91.2と最も水準の差が大きく、次いで整髪料（96.1）となっている。

2019年結果と比較すると、ラップ、生理用ナプキン及び整髪料では価格水準の差が縮小している。縮小した要因は、ラップ及び生理用ナプキンは、価格水準が低いスーパーの価格の上昇率が、価格水準が高い量販専門店の価格の上昇率を上回ったことによる。整髪料は、価格水準が低い量販専門店の価格の上昇率が、価格水準が高いスーパーの価格の上昇率を上回ったことによる。

一方、ドリンク剤では価格水準の差が拡大している。拡大した要因は、価格水準が高いスーパーの価格の上昇率が、価格水準が低い量販専門店の価格の上昇率を上回ったことによる。

（表2-2、図2-2）

（注7）全都道府県庁所在市（全47市、東京都については東京都区部）の年平均価格

表2-2 調査対象5品目の店舗形態別年平均価格及び価格水準

品目（単位）	店舗形態	2020年			2019年			2019年との比較 (2020年-2019年)	
		年平均 価格 (円)	価格 水準 (注8)	価格水準 の差 (注9)	年平均 価格 (円)	価格 水準 (注8)	価格水準 の差 (注9)	年平均 価格の 変化 (円)	年平均 価格の 変化率 (%)
ラップ (1本(幅22cm×長さ50m))	スーパー	305	100.0	1.6	302	100.0	2.0	3	1.0
	量販専門店	310	101.6		308	102.0		2	0.6
洗濯用洗剤 (1kg(液体))	スーパー	310	100.0	-1.6	299	100.0	0.0	***	***
	量販専門店	305	98.4		299	100.0		***	***
ドリンク剤 (1箱(100mL×10本))	スーパー	1,121	100.0	-8.8	1,099	100.0	-8.2	22	2.0
	量販専門店	1,022	91.2		1,009	91.8		13	1.3
生理用ナプキン (昼用, 10個)	スーパー	172	100.0	0.6	170	100.0	1.2	2	1.2
	量販専門店	173	100.6		172	101.2		1	0.6
整髪料 (1個(80g))	スーパー	740	100.0	-3.9	731	100.0	-4.2	9	1.2
	量販専門店	711	96.1		700	95.8		11	1.6

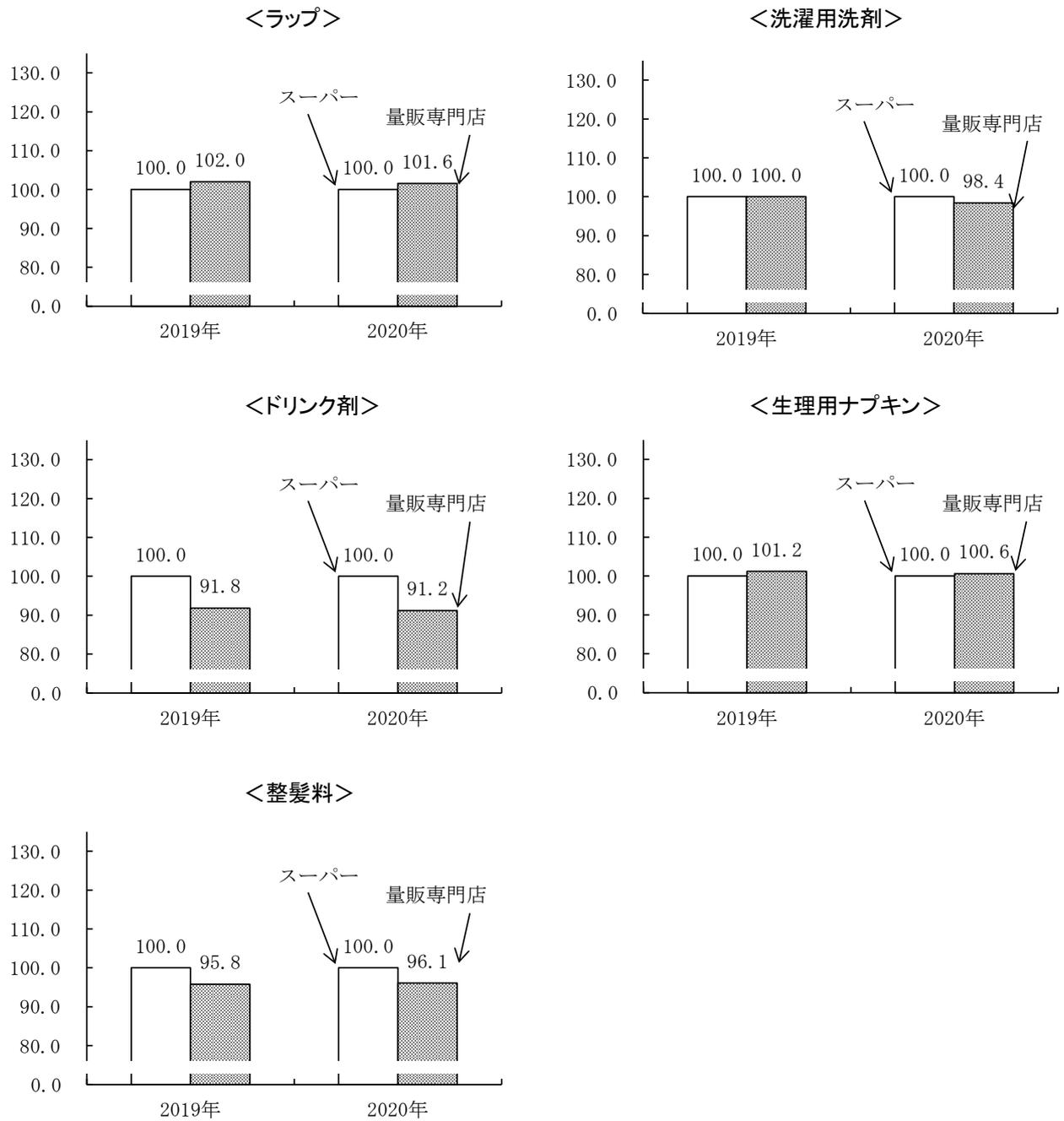
（注8）価格水準は、各年のスーパーの年平均価格を100とした際の値

（注9）価格水準の差＝「量販専門店」の価格水準－「スーパー」の価格水準

「***」：調査銘柄が異なるため2019年との単純比較はしない。調査銘柄の詳細については、「付録4 調査品目及び調査銘柄」

(2019年については、<https://www.stat.go.jp/data/kouri/kouzou/zuhyou/hin2019.xls>)を参照

図2-2 調査対象5品目の店舗形態別価格水準（スーパーの年平均価格=100）



3 価格分布の状況について

ここでは、2020年（令和2年）に調査した店舗の価格情報を利用して価格分布（10%点、25%点、50%点、75%点及び90%点）及びその他の統計量（「(参考)用語の説明」193ページを参照）に関する特別集計の結果について紹介する。

なお、年の途中で銘柄改正を行った場合は、改正月以降の月に限定して集計している。

(1) スーパーと一般小売店の比較

- ◆ うるち米、コロッケ及び清酒は、スーパーに比べ一般小売店の価格の広がりが大きい
- ◆ コロッケは、スーパー、一般小売店共に価格の散らばり度合いが最も大きい

スーパーと一般小売店の比較を目的とした4品目について、それぞれ店舗形態別に10%点、25%点、50%点、75%点、90%点の価格を比較することにより、店舗形態別の価格分布の状況を見る。

うるち米は、10%点を除いては、一般小売店の価格がスーパーの価格よりも高くなっている。

豚肉は、いずれの%点においても一般小売店の価格がスーパーの価格よりも低くなっている。

コロッケ及び清酒は、いずれの%点においても一般小売店の価格がスーパーの価格よりも高くなっている。

次に、四分位範囲により価格の広がりをみると、豚肉以外の品目において、スーパーに比べ一般小売店が大きくなっている。

(表2-3, 図2-3)

さらに、四分位分散係数により店舗形態別に各品目の価格の散らばり度合いを比較すると、スーパーでは、コロッケが最も大きく、うるち米及び清酒が小さくなっている。一般小売店では、コロッケが最も大きく、うるち米が最も小さくなっている。

(表2-3, 図2-4)

表2-3 調査対象4品目の店舗形態別価格分布に関する統計量

	うるち米 (単位：1袋)		豚肉 (単位：100g)		コロッケ (単位：100g)		清酒 (単位：1本)	
	スーパー	一般小売店	スーパー	一般小売店	スーパー	一般小売店	スーパー	一般小売店
価格数	1,765	1,114	1,742	1,140	1,741	1,133	1,093	767
平均価格(円)	2,167	2,231	242	205	99	124	985	1,166
90%点(円)	2,462	2,600	278	259	127	167	1,078	1,500
75%点(円)	2,257	2,400	267	220	115	144	1,020	1,300
50%点(円)	2,138	2,200	246	198	99	122	966	1,155
25%点(円)	2,030	2,050	214	180	88	100	922	1,036
10%点(円)	1,922	1,890	204	162	65	86	899	938
四分位範囲(円)	227	350	53	40	27	44	98	264
四分位分散係数	0.05	0.08	0.11	0.10	0.14	0.18	0.05	0.11

※ 各統計量の算出方法は、後述の「(参考)用語の説明」を参照

※ 特別集計における平均価格は、2020年（令和2年）の偶数月に調査した店舗の価格を単純算術平均したものである。そのため、店舗形態別価格調査の統計表に掲載されている年平均価格とは必ずしも一致しない。

図 2-3 調査対象 4 品目の店舗形態別価格分布図

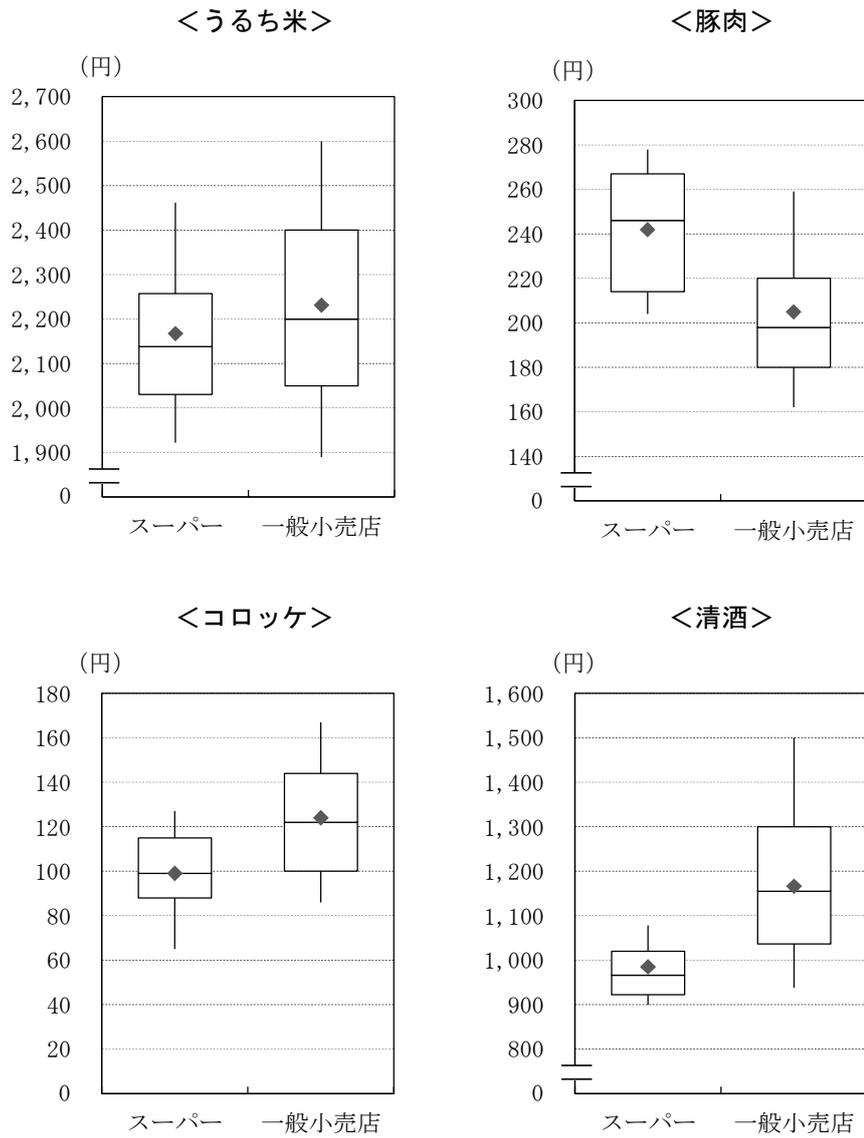
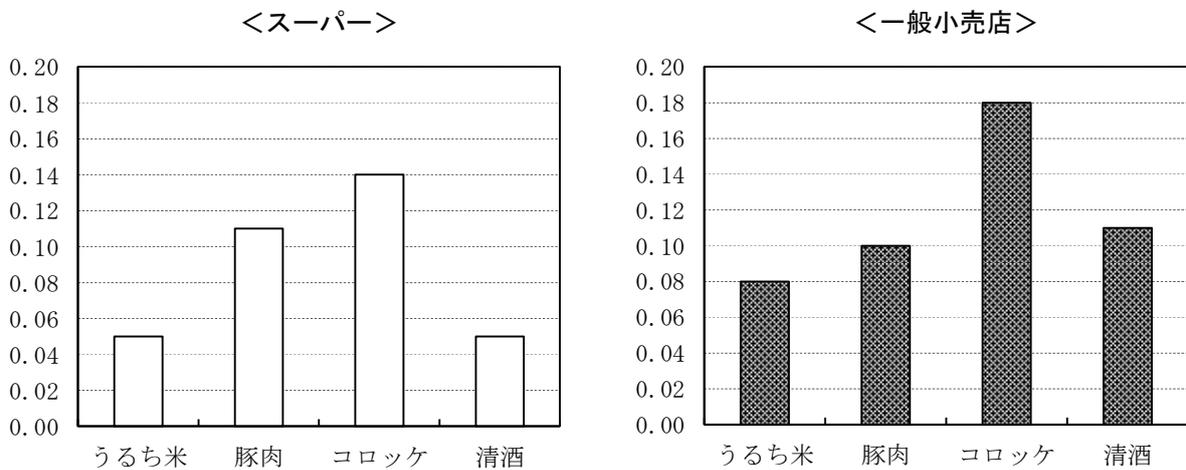


図 2-4 調査対象 4 品目の店舗形態別価格の散らばり度合い (四分位分散係数)



(2) スーパーと量販専門店の比較

- ◆ 生理用ナプキンは、スーパーに比べ量販専門店の価格の広がりが大きい
- ◆ 洗濯用洗剤は、スーパー、量販専門店共に価格の散らばり度合いが最も大きい

次に、スーパーと量販専門店の比較を目的とした5品目について、店舗形態別の価格分布の状況を見る。

ラップは、いずれの%点においてもスーパーに比べ量販専門店の価格が高くなっている。

洗濯用洗剤は、10%点及び50%点の価格がスーパーと量販専門店とで一致しているなど、似た分布状況となっている。

ドリンク剤は、いずれの%点においてもスーパーに比べ量販専門店の価格が低くなっている。

生理用ナプキンは、25%点及び50%点の価格がスーパーと量販専門店とで一致しているなど、似た分布状況となっている。

整髪料は、いずれの%点においてもスーパーに比べ量販専門店の価格が低くなっている。

次に、四分位範囲により価格の広がりをみると、生理用ナプキンについてはスーパーに比べ量販専門店が大きく、洗濯用洗剤、ドリンク剤及び整髪料についてはスーパーに比べ量販専門店が小さくなっている。ラップについてはスーパーと量販専門店とで一致している。

(表2-4, 図2-5)

さらに、四分位分散係数により店舗形態別に各品目の価格の散らばり度合いを比較すると、スーパー、量販専門店共に、洗濯用洗剤が最も大きく、ドリンク剤が最も小さくなっている。

(表2-4, 図2-6)

表2-4 調査対象5品目の店舗形態別価格分布に関する統計量

	ラップ (単位: 1本)		洗濯用洗剤 (単位: 1kg)		ドリンク剤 (単位: 1箱)		生理用ナプキン (単位: 10個)		整髪料 (単位: 1個)	
	スーパー	量販 専門店	スーパー	量販 専門店	スーパー	量販 専門店	スーパー	量販 専門店	スーパー	量販 専門店
価格数	1,523	1,355	520	439	940	953	1,495	1,387	927	996
平均価格(円)	303	310	307	307	1,115	1,021	172	173	737	706
90%点(円)	328	355	411	396	1,274	1,078	192	202	836	820
75%点(円)	316	327	353	347	1,137	1,047	182	191	786	735
50%点(円)	295	305	282	282	1,078	1,027	164	164	731	723
25%点(円)	283	294	253	268	1,045	998	164	164	701	657
10%点(円)	273	278	239	239	987	968	153	149	659	605
四分位範囲(円)	33	33	100	79	92	49	18	27	85	78
四分位分散係数	0.06	0.05	0.18	0.14	0.04	0.02	0.05	0.08	0.06	0.05

※ 各統計量の算出方法は、後述の「(参考)用語の説明」を参照

※ 特別集計における平均価格は、2020年(令和2年)の偶数月に調査した店舗の価格を単純算術平均したものである。そのため、店舗形態別価格調査の統計表に掲載されている年平均価格とは必ずしも一致しない。

図 2-5 調査対象 5 品目の店舗形態別価格分布図

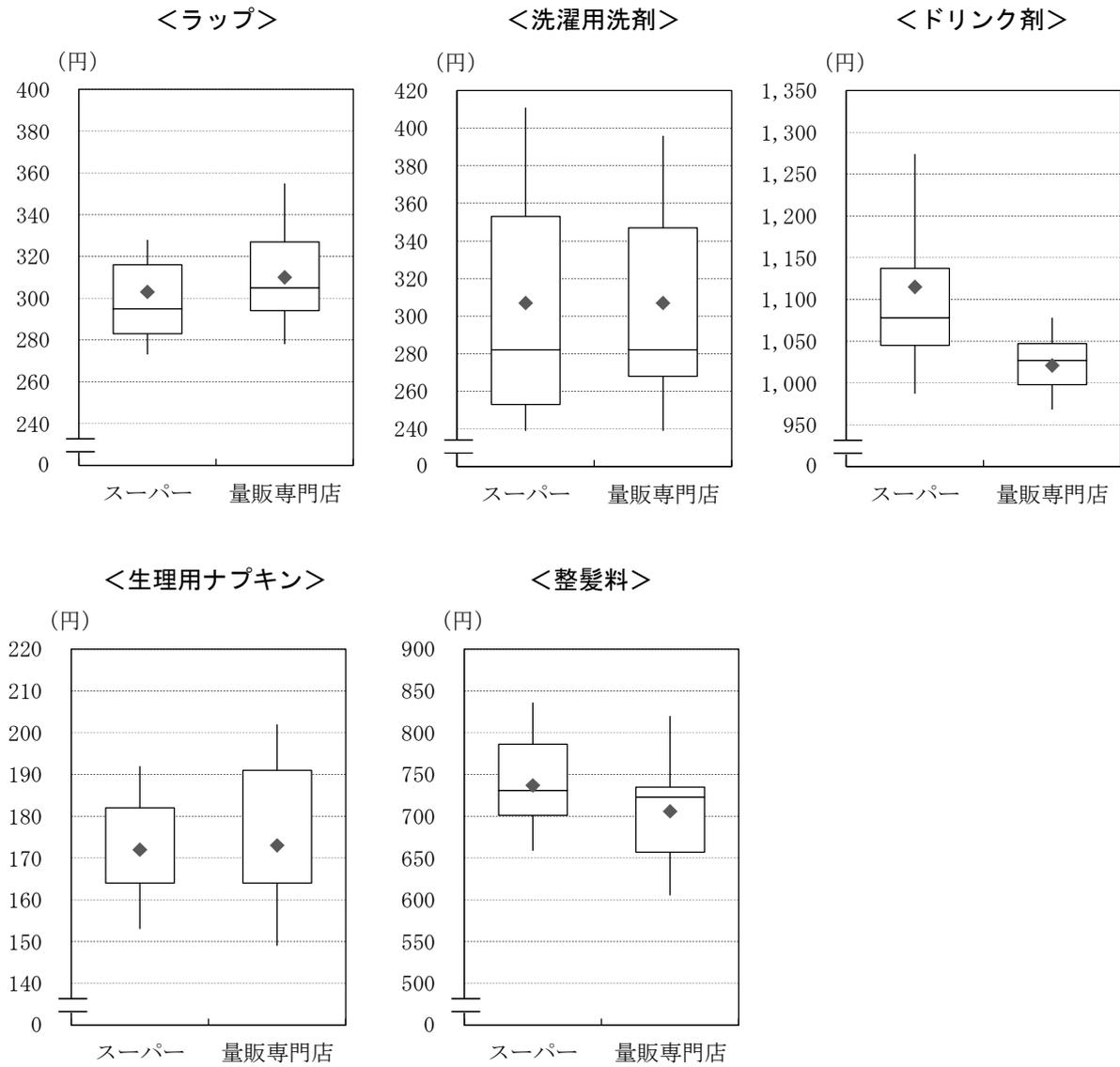
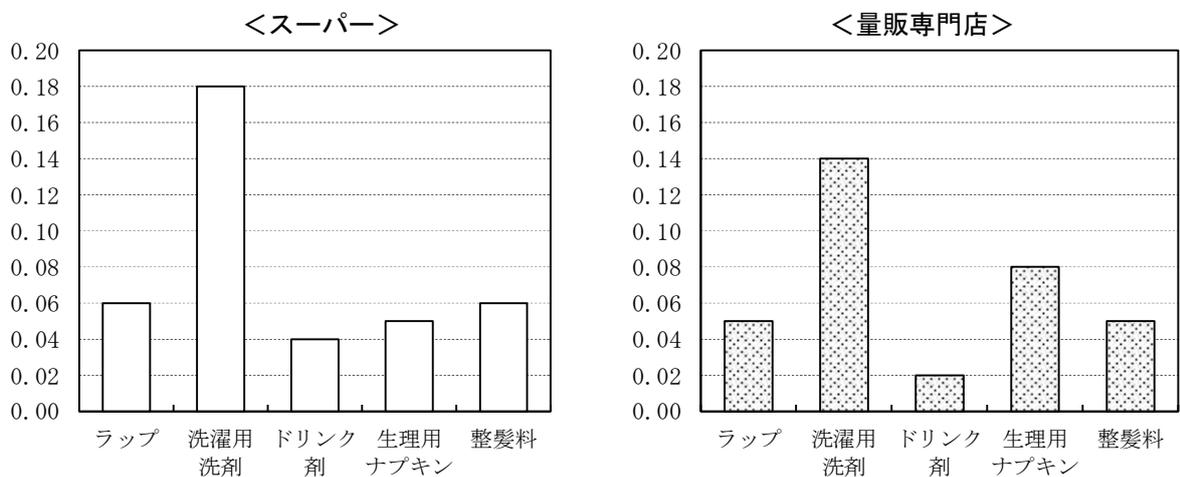


図 2-6 調査対象 5 品目の店舗形態別価格の散らばり度合い (四分位分散係数)



(参考) 用語の説明

(1) 各統計量について

・ %点

調査された店舗の価格を価格の低い方から並べ、低い方から数えて25%、50%、75%に当たる点を25%点、50%点、75%点として求めている。25%点は第1四分位点、50%点は第2四分位点、75%点は第3四分位点という。

なお、今回の集計では、分布の全体的な状況を把握するため、10%点、90%点も求めている。

・ 四分位範囲

75%点（第3四分位点）と25%点（第1四分位点）の差をいう。

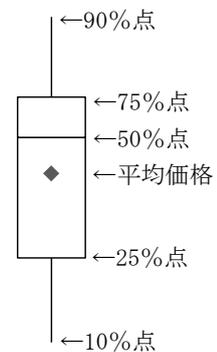
・ 四分位分散係数

四分位範囲の2分の1を求め、それを50%点で除した値。これにより、価格の散らばり度合いを品目間で比較することが可能となる。

(2) 価格分布図（右図）

平均価格や各%点の水準を視覚的に表したもの。価格の広がり、四分位範囲をみることで把握することができ、この差が小さければ価格の広がりが小さく、大きければ価格の広がりが大きいといえる。

なお、これらの点のうち、二つ以上の点が一致することもあり得る。



4 店舗形態別の価格の動き

ここでは、各調査品目について、2016年2月^(注10)のスーパーの平均価格(全都道府県庁所在市の平均価格)を100として、そこから2020年12月までの期間について、各調査月(偶数月(2月, 4月, 6月, 8月, 10月及び12月))の平均価格を指数化し、店舗形態別の価格の動きを確認する。

(1) スーパーと一般小売店の比較

うるち米は、スーパー、一般小売店共に上昇傾向であったが、2020年4月頃から緩やかな下落傾向となっている。また、価格水準差^(注11)をみると、2018年4月頃まで縮小傾向にあったが、その後は拡大傾向となっている。

豚肉は、スーパーについては、2019年頃から緩やかな上昇傾向で推移している。一般小売店については、緩やかな上昇傾向で推移している。また、価格水準差をみると、ほぼ横ばいで推移している。

コロッケは、スーパーについては、2020年2月頃から下落傾向となっている。一般小売店については、緩やかな上昇傾向となっている。また、価格水準差をみると、拡大傾向で推移している。

清酒は、スーパーについては、2019年10月の消費税率引上げに伴う上昇を除くと、2017年6月頃から下落傾向で推移している。一般小売店については、緩やかな上昇傾向で推移していたが、2019年10月には消費税率引上げに伴う価格の上昇が見られた後はほぼ横ばいとなっている。また、価格水準差をみると、近年は拡大傾向で推移している。

(図2-7)

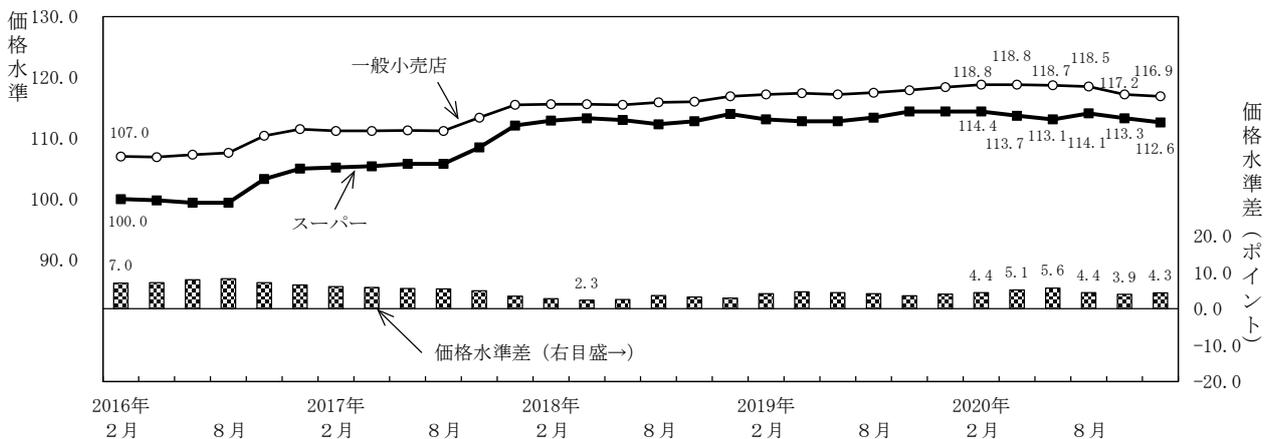
(注10)「清酒」,「ラップ」及び「整髪料」は2017年2月,「生理用ナプキン」は2018年2月

(注11) 価格水準の差 = 「一般小売店」の価格水準 - 「スーパー」の価格水準

図2-7 調査対象4品目の店舗形態別価格の動き

<うるち米>

(2016年2月のスーパーの平均価格=100)



(2) スーパーと量販専門店の比較

ラップは、スーパー、量販専門店共に、ほぼ横ばいで推移していたが、2019年10月の消費税率引上げに伴う価格の上昇の後には下落傾向となっている。また、価格水準差^(注12)をみると、ほぼ横ばいで推移している。

洗濯用洗剤は、スーパー、量販専門店共に、2019年2月頃から上昇傾向で推移している。また、価格水準差をみると、非常に低い水準で推移している。

ドリンク剤は、スーパー、量販専門店共に、2019年10月の消費税率引上げに伴う価格の上昇を除くと、ほぼ横ばいで推移している。また、価格水準差をみると、価格の動きと同様に、ほぼ横ばいで推移している。

生理用ナプキンは、スーパー、量販専門店共に、上昇傾向で推移しているが、2019年10月は消費税率引上げに伴う価格の上昇がみられた。また、価格水準差をみると、非常に低い水準で推移している。

整髪料は、スーパー、量販専門店共に、ほぼ横ばいで推移している。また、価格水準差をみると、価格の動きと同様に、ほぼ横ばいで推移している。

(図2-8)

(注12) 価格水準差 = 「量販専門店」の価格水準 - 「スーパー」の価格水準

図2-8 調査対象5品目の店舗形態別価格の動き

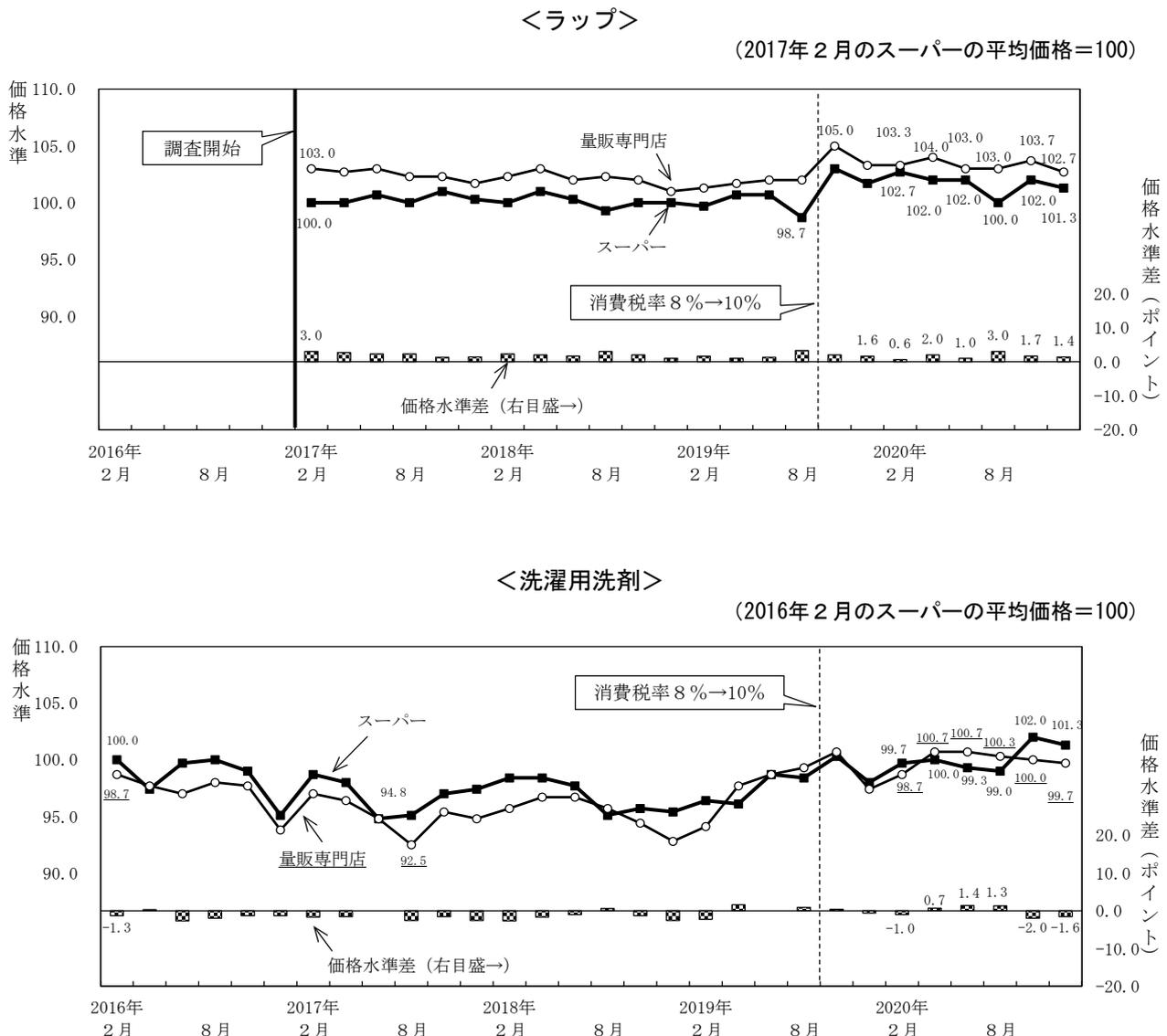
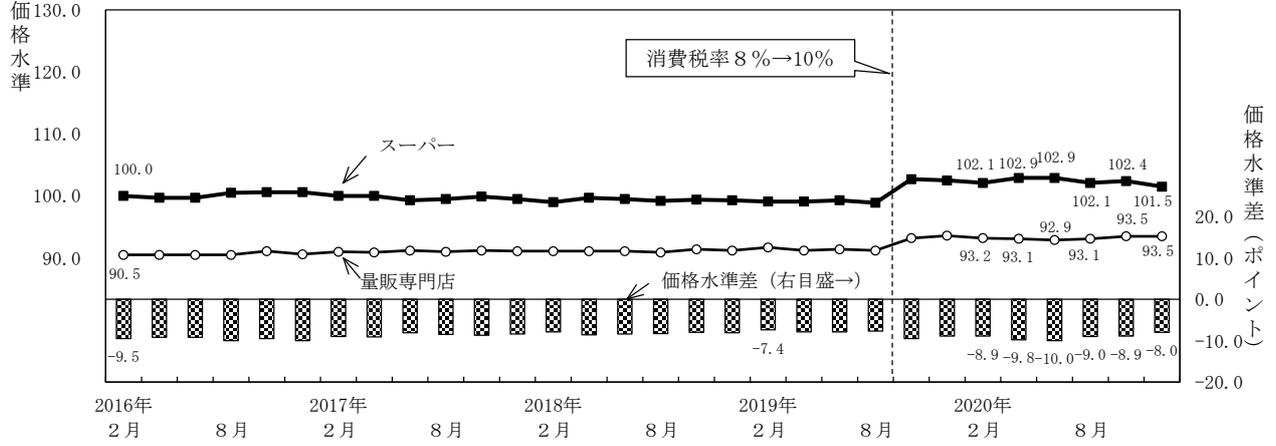


図2-8 調査対象5品目の店舗形態別価格の動き（続き）

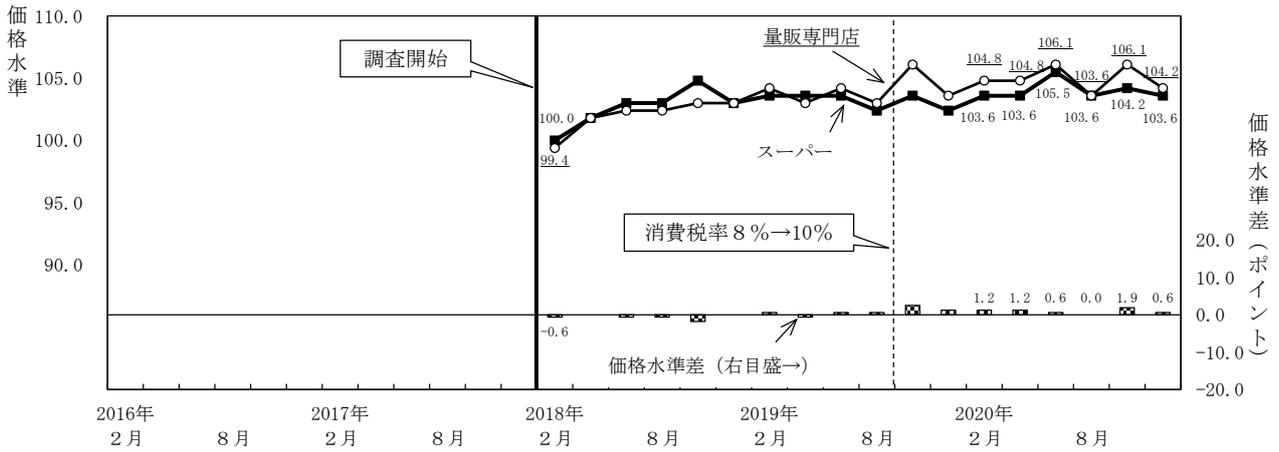
<ドリンク剤>

(2016年2月のスーパーの平均価格=100)



<生理用ナプキン>

(2018年2月のスーパーの平均価格=100)



<整髪料>

(2017年2月のスーパーの平均価格=100)

